

病害虫発生予報 第8号(11月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病 ハダニ類 ウラナミシジミ	並 並 並 並 並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 並 並
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病 アブラムシ類 コナガ ヨトウガ	並 やや多 並 並	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	並 やや少
			果樹全般	カメムシ類	少

気象予報

1か月予報（予報期間10月27日～11月26日 大阪管区气象台）

< 特に注意を要する事項 >

期間の前半は、気温の変動が大きい見込みです。

< 予想される向こう1か月の天候 >

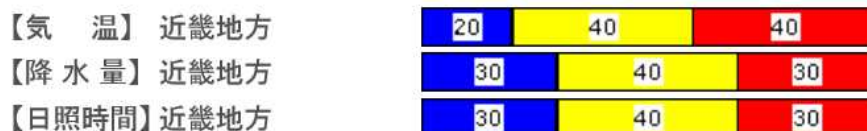
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わってでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
11 月	和歌山 13.5	和歌山 90.5
	潮 岬 15.3	潮 岬 160.2

I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は25%（平成13%）、発病葉率は0.5%（平成0.5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は26%（平成30%）、生息株率は5.8%（平成12.6%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の被害発生ほ場率は63%（平成51

%)、被害株率は23.7% (平年18.4%) であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。

② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

<ハクサイ、キャベツ>

1. 黒斑細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0% (ハクサイ：平年8%、キャベツ：過去9年の平均7%) であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は43% (平年19%)、生息株率は10.0% (平年2.2%) であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は57% (平年42%)、生息株率は28.6% (平年7.8%) であった。

② 黄色水盤 (紀の川市) への10月1～20日の飛来数は、128頭 (平年32.7頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率10%、10株あたり生息密度0.06頭) であった。

② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市165頭 (過去7年の平均42.7頭)、紀の川市1頭 (平年0.5頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率11%、生息株率1.1%) であった。

② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市13頭 (平年6.4頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は14%（平年7%）、生息株率は0.7%（平年0.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は5%（平年21%）、生息株率は0.5%（平年3.4%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市29頭（平年13.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 平成30年度病害虫発生予察注意報第8号（9月28日発表）を参照する。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は14%（平年19%）、生息株率は2.1%（平年1.9%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は32%（平年32%）、生息株率は4.7%（平年7.4%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市2,674頭（過去7年の平均1,510頭）、紀の川市1,097頭（平年934頭）、御坊市3,923頭（平年1,743頭）、印南町2,544頭（平年594頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均：発生ほ場率6%、生息株率0.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は5%（平年31%）、生息株率は0.5%（平年6.1%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市30頭（平年25.0頭）、御坊市8頭（平年35.6頭）、印南町68頭（平年10.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生園率は21%（平年21%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
- ② 果実はていねいに取り扱い、果面に傷をつけない。
- ③ 収穫前の薬剤散布を励行する。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生園率は5%（平年14%）、発生葉率は0.3%（平年3.8%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。
- ② 収穫時期まで袋かけを行なう品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

< 果樹全般 >

1. カメモムシ類

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメモムシ0頭（平年13頭）、ツヤアオカメモムシ6頭（同70頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメモムシ0頭（過去4年平均24頭）、ツヤアオカメモムシ0頭（同176頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメモムシ1頭（過去8年平均114頭）、ツヤアオカメモムシ24頭（同1546頭）であった。
- ④ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 園内外のカメモムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
- ② 飛来がみられる園で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780